

アクセスパネルについて

全国25万世帯、83万人(2015年4月時点)のモニターボリューム

全国規模の大サンプルの調査にも十分耐えうる規模をご用意しています

特定の募集ツールに偏らない方法により構築しています

- 住民基本台帳から無作為に抽出した世帯に協力を依頼し、20年以上かけて構築した調査専用パネルです。
- 住民基本台帳の閲覧が制限された近年は、既存モニターからの紹介（スノーボール）により、計画的に拡大しています。
- インターネット、新聞、雑誌など特定ツールによる募集や自発的な応募者の登録はしていません。

世帯単位での登録により広範囲な対象者にアクセスできます

- 通常アクセスしにくい、シルバー層や子供への調査が容易に実施できます。
- 通常世帯重複の排除がしにくいオンライン調査でも、確実なチェックが可能です。

幅広い調査手法によるアクセスが可能です

- 全パネル(83万人)が郵送、電話によるアクセスに対応できます。
- FAX(45万人)、オンライン(16万人)での調査も可能です。
(各種調査を組み合わせたハイブリッド型調査にも対応)

市場の正確な理解・推計を可能にする運用とメンテナンスに努めています

- 調査機会ごとに情報更新を促し、モニター専用デスクでモニター情報の更新を通年受け付けています。
- 調査インターバルを設定し、「調査慣れ」や「調査疲労」を防止しています。
(1人当たり調査実施頻度は平均年2回程度)
- 平均的な回収率は65%以上と、高い協力率を確保しています。